

尿路結石症のすべて

日本尿路結石症学会, 郡 健二郎 編集

＜書評者＞ 伊藤晴夫 (千葉大学名誉教授)

日本尿路結石症学会理事長の郡健二郎教授が編集された「尿路結石症のすべて」(医学書院)を読んだ感想を述べる。

まず, 郡健二郎教授の序文に感銘を受けた。尿路結石に関する3つのエポックメイキングな出来事を述べておられるが, そのとおりだと思う。また, 病態の研究については, 先生の主導される分子メカニズムが解明されようとしていることは刺激的なことである。

本書は, 総説, 診断, 治療, 尿路結石の成因, 尿路結石の形成機序, 尿路結石モデル動物, 尿路結石における基礎研究手法, という7章, および13編よりなるCoffee break 欄より構成される。また, 執筆者は総計79名と驚くべき数であり, それぞれの方が専門分野を分担している。

以上の7つの章は, みな新しい知見に満ちていて参考になる。治療の章で感じるのは, 結石の除去法が以前とまったく異なってきたことである。郡健二郎教授が挙げた3つ目のエポックメイキング

な出来事はESWL(体外衝撃波結石破碎術)である。これは, まさに結石の治療法を変えたということで, 革命的なことであった。私たちが若いころは, 結石の開腹手術が泌尿器科手術の中で最も多い手術だった。今日では内視鏡治療とESWLが取って代わったが, 内視鏡手術は結石治療を契機に進歩したことを心に留めたい。また, 尿路結石が生活習慣病の一種だということは, 日本では井口正典院長をはじめ多くの研究者に言われていたことだが, はっきりとその因果関係が明らかになりつつあるのは素晴らしいことだと思う。

この本の特徴は, 「尿路結石の成因」, 「尿路結石の形成機序」, 「尿路結石モデル動物」, 「尿路結石における基礎研究手法」, という章立てからもわかるように, 研究に関して力を入れていることである。特に, 尿路結石モデル動物, 基礎的研究手法は, これから結石の研究を始める人にとっては極めて有用であると考ええる。これは, 尿路結石学会が中心となって作製され

たことから当然といえば当然だが, 郡健二郎教授を始め尿路結石学会の執行部の皆様の強い希望が反映しているのだと思う。最近, 泌尿器科領域では前立腺癌などの悪性腫瘍や排尿機能に研究が集中しているが, 尿路結石についてもさらに研究が深まってゆくことを期待したい。この本がその引き金になってくれればありがたい。

また, 最後のCoffee Break 欄も興味深く読ませていただいた。小生にとり, 特に懐かしかったのは, 小出卓生先生の「尿の保存法」であった。先生は尿の保存のために, 種々な防腐剤のうちでsodium azide を使用されていたとのことである。小生が, シカゴ大学のFLCoe 教授の研究室で実験したときにも同じものを使っていた。小出先生とCoe先生という日米の傑出した研究者が同じ結論に達していたのは感慨深い気がする。

この単行書が日本の尿路結石診療に役立ち, さらに結石研究を盛んにする契機となることを期待する。

●B5 頁228 2008年
定価6,300円
(本体6,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-70061-0]
医学書院刊